

科目名		授業形態		担当教員名	
言語発達障害演習Ⅱ		講義・実習		石井 喜代香・西田 和子	
時間数（単位数）		授業回数		年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回		2 年次	前期
授業の目的・概要					
2グループに分かれ、様々な発達障害の事例について、ビデオ観察による検査や行動観察から総合的に評価し、目標設定と具体的な指導方法について理解する。また、グループワークで、実際にケースの子どもにかかわり、指導の立案、教材作成等を行い、学んだ知識をどのように評価や訓練に活かすのか体験し理理を深める。その後、ことばかけや遊びの適切性について話し合い、フィードバックを行う。					
授業の到達目標					
1. 検査・行動観察・情報収集から実態把握ができる。 2. 幼児期から学童期の評価、指導について理解し、目標設定ができる。 3. 目標設定し、教材を作成する。 4. 実際のかかわりから評価、支援のあり方を知り具体的な遊びやことばかけについて理解を深める。					
授業計画					
回	内容	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ
1	課題1 遊びの評価と目標設定		事例Aアセスメント	16 課題4 報告書	課題8 教材
2	〃		課題5 総合所見	17 課題7 FB	課題3 FB
3	事例Aアセスメント		課題1 遊びの評価と目標設定	18 課題8 教材	課題4 報告書
4	課題5 総合所見		〃	19 課題4 FB	課題8 発表
5	課題1 FB		課題5 FB・課題6 報告書	20 保育所との連携と支援	課題8 FB
6	課題2 総合所見		WISC-4評価の分析	21 課題8 発表	課題4 FB
7	課題5 FB・課題6 報告書		課題1 FB	22 課題8 FB	保育所との連携と支援
8	WISC-4評価の分析		課題2 総合所見	23 学童期の評価と目標設定	幼児期～学童期の指導
9	課題2 FB		WISC-4分析～解釈	24 〃	〃
10	課題3 総合所見		課題6 FB・事例Bアセスメント 課題7	25 幼児期～学童期の指導	学童期の評価と目標設定
11	WISC-4分析～解釈		課題2 FB	26 〃	〃
12	課題6 FB・事例Bアセスメント 課題7		課題3 総合所見	27 遊びについて（保育）	
13	指導の展開（事例：幼児期～青年期）			28 遊びについて（保育）	
14	指導の展開（事例：幼児期～青年期）			29 小児グループワーク（かかわりの実際）	
15	課題3 FB		課題7 FB	30 小児グループワーク（FB）	
成績の評価法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
定期試験					
レポート	75%	石井（35%） 西田（40%）			
小テスト					
平常点					
その他	25%	グループワーク（かかわり）			
自由記載	各レポートで基準に満たない場合は、再提出がある。				
教科書					
書名	著者・編集者名			出版社名	
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石田宏代・大石敬子 編			医歯薬出版	
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版	玉井ふみ 編			医学書院	
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名			出版社名	
自由記載					
備考					
Aグループ、Bグループに分かれて授業を実施する。13, 14, 27, 28はAB合同で実施する。					